

# U n f o r g e t t a b l e E x p e r i e n c e s

岡崎市 社会文化部 国際課 五十嵐 千草

まぎれもなく今年一番のビッグイベントであり、一生忘れることのできない出会いと体験に感動しつつ、派遣していただけたことに感謝申し上げます。そして、この体験の一番重要な点は、高校生同士が意見を言い合っ互いの文化、教育の違いを共有し、交流し、お互いを鼓舞し合い高めることにあると思っております。参加した高校生をはじめ、全ての関係者、そして私も含めて、ひとつでもその一助を担い、これからの人生という本の一頁を増やし、時にはひも解いて活用できることを願っております。



【高校生の皆様と長いエスカレーターで】

ついにスウェーデンの土を踏みました。  
次の出会いに胸を高鳴らせながら、これからお世話になるケビンさんとクリスター有琳藤さん親子とお会いしました。そして初めて訪れる国の清々しい空気を胸いっぱい吸って、電車乗車中のめぐるめく景色に感嘆の声を上げつつ、ストックホルムに到着しました。翌日から、ヤコブ君、梁さんも加わり、市庁舎、ガムラスタン、ノーベル博物館等ストックホルムを見学し、その王室等古い歴史に彩られた部分と最新の建物等が混在する先進地ストックホルムを堪能しました。

そして、いよいよこの派遣の核心に触れるウッデバラ市訪問となり、またこの派遣において、ホストファミリーの彼らの協力なしには私たちの体験は出来上がりませんでした。彼らとの出会いこそが、最大必要不可欠であり、交流の要でした。25日の夕刻、私たちは彼らと対面しました。誰もがどきどきしたことかと思えます。最初こそ緊張していた私たちも、日に日に彼らの家族の一員となり、29日の別れの朝を迎えたくないと思ったことでしょう。彼らの家族になることは、一步踏み込んだウッデバラ市の生活、風習、そこに住む人々を知る鍵だったと確信しております。

27日と28日の両日は、朝からお忙しでした。朝、オストラボ高校でスクールマネージャーのステファンさんのウッデバラ高校に関してのお話を聞き、その返礼に同行した愛知県立岡崎商業高校の4人のかわいい生徒さんたちの高校紹介のパワーポイントを行って、日本の高校生についてしっかり紹介していただきました。その後、ウッデバラ高校の授業を見学し、その都度紹介や歌を歌ったりして、たくさんの質問に対して答え、またこちらから質問してスウェーデンと日本との高校の違い、文化、習慣、生活に及ぶ様々な事柄を共有し、感嘆し、共に学び合っ、まさに国際交流を行っていた生徒たちに、私は感心しきりでありました。あまりに互いの力が入っておいりましたので、一緒に一休みでおやつタ

イムである「フィーカ」をウッデバラの先生たちも交えながら食べた時は格別で、ほっこりしました。唯一、日本とここが違うと一番すごいと思ったのは、高校生在籍のまま、有名企業に勤めることが現実できているということでした。有能なアイデアを持つ者であれば、それを企業等に提供するの自由で、それによってお金をもらうのは、日本においては考えられないこと



【広いウッデバラ高校の校舎の一部と中庭と広い駐車場】

ととただただ驚きました。また、高校でありながら、日本だったら大学並の講義の進め方であり、3Dプリンタが高校であって、その解析を先生と生徒で実施している等、本当に驚きの連続でした。

さらに、驚いたことは、ウッデバラ高校生の積極性です。岡崎の高校生の発表が終わると、林のように手をあげて質問し、質問している間にもどんどん新しい質問の浮かんだ生徒が手をあげる様子に、日本ではウッデバラ高校生が発表を終わった後の少ない挙手とは比べものにならないものでした。また、質問する内容も陳腐な内容ではなく、真剣に知りたいという思いからの質問だとわかり、その探究心と知識欲には脱帽でした。日本人は奥ゆかしいと表現されますが、こと教育という面ではもっと積極的にアグレッシブになってもよいのではと思いました。この貪欲なまでの探究心が、先に紹介した在学しながら企業に勤めるという学生を生んでいるのだなと思いました。それから、特筆すべきこととして、勉強についていけなくなった学生のための勉強だけを見る保健室のような個別相談室が学校内に完備されていて、常時3名の先生が生徒の意思に基づく勉強の指導を無料で行っているところが、さすが福祉国家スウェーデンとうなずかされました。もし、私が学生時代に戻れるなら、ぜひスウェーデンで勉強してみたいと思いました。あと、お世話になった先生方と市長もお越しになっての晩餐はとても楽しいもので、日本文化の着物を紹介できたことはとても思い出深いものとなりました。

最後に、出発前から共に学び、語り、相談し合い、この体験の仲間として過ごした高校生の皆様と先生に感謝したいと思います。大きい事故もなく、代わりに大きい思い出をたくさん作ることができたことは、皆様の協力がなくてはできなかったと思います。今回ほど、英語を話す機会が多かったのではと思うほど、恵まれた機会をいただいたとは言え、異国の地で慣れない英語を駆使しての会話は苦労が多かったかと思いますが、どの子も皆頑張っていたので、頼もしくすら思いました。同胞である樹里ちゃん、咲華ちゃん、萌友ちゃん、このみちゃん、それから洞口先生、本当に熱い夏の思い出をありがとうございました。皆様の今回の体験が、これからの人生のターニングポイントになってくれることを願っております。